

### 第3章 保護者調査の分析結果

この第3章では、中学生の保護者に対して行った質問紙調査の調査結果を示し、検討を行う。その際、分析対象者全体の結果とともに、居住する地域の非行発生の多少で分析対象者を分けた結果をみていく。

各地域の非行発生の多少をどう算出したかを説明すると、先の中学生調査の分析では中学生個人毎の非行経験の頻度が得点化されたが、その非行得点の地域ごとの平均値を算出した。不備のない非行経験の平均値が得られたのは92地域で、この平均値の分布を元に、92地域を、上位25%（平均値3.70以上：23地域）、中間50%（平均値2.34～3.69：46地域）、下位25%（平均値2.28以下：23地域）に3区分することにした。上位25%は中学生の自己報告非行が最も多い地域であるので「多非行群」とし、下位25%は逆に自己報告非行が最も少ない地域なので「少非行群」とし、中間50%は「中非行群」とした。以下に示す各図表の結果では、居住する地域がこの3区分のどれに属するかで分析対象者を分けた結果をみていくわけである。3区分された分析対象者の人数は、多非行群2,252人、中非行群4,456人、少非行群2,422人である。なお、各図表の結果では、無回答を除いて集計が行われており、そのために分析毎に各群の母数が若干異なっていることに留意されたい。

#### 1 地域との関わり、コミュニティ意識

まず、保護者がどの程度地域に根付いているか、また地域住民のままとまりの状況がどうであるかをみることにしたい。

表3-1-1は、現在住んでいる地域で、町内会、自治会、婦人会または市民サークルなど諸団体の役員についたことがどの程度あるかを尋ねた結果で、全体で見ると、「たくさんある」が1割、「すこしある」が6割、「まったくない」が3割となっている。地

表3-1-1 地域団体の役職経験

	多非行	中非行	少非行	全体
たくさんある	8.8	9.8	11.0	9.9
すこしある	57.3	60.4	62.9	60.3
まったくない	33.9	29.8	26.1	29.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

地域の非行発生別でみると、非行が多い地域ほど、「たくさんある」あるいは「すこしある」と答える者が少なく、逆に「まったくない」者が多くなっている（「まったくない」のポイント差が多非行群と少非行群で8）。

また、表3-1-2は、住んでいる地域の町内会・自治会がどのような活動をしているか尋ね、6つの回答選択肢からあてはまるものすべてに○をつけてもらった結果である。全体の結果をみると、「お祭りなどの行事や催し物などを行っている」あるいは「自治体の広報などの回覧を回している」という回答が75%、「地域の清掃や環境美化活動をしている」という者が7割、「地域の問題について話し合う会合を行っている」あるいは「防犯・防災パトロールが行われている」という者が3割で、「ほとんど活動していない」がわずか5%となっている。地域の非行発生別でみると、回答に違いが出ているのは「お祭りなどの行事や催し物などを行っている」についてで、地域の非行が少なくなるほど、この項目を肯定する者が多くなっている（多非行群と少非行群のポイント差が11）。

次に、表3-1-3は、調査対象者が居住している地域をどのようにみているか、すなわちコミュニティ意識を尋ねた結果で、各項目とも「まったくその通り」あるいは「まあその通り」と回答した者の割合を示してある。全体の結果をみると、「私は同じ地域の人たちと話が合う」あるいは「私は現在住んでいる地域に、できるだけ長く住みたい」という者が7～8割、「この地域では、問題が生じたら、みんなで協力して解決することができる」あるいは「この地域の人たちは、お互いによく助け合う」という者が6割弱、「私は同じ地域の人と、他の地域の人とを見分けることができる」あるいは「この地域の人たちは同じような物の考え方をしている」という者が4割強となっている。地域の非行発生別でみると、6項目すべてについて、地域の非行発生が少なくなるほど、肯定する者の割合が若干増加しているが、少非行群と多非行群との間で5ポイント以上開いた項目はなく、顕著な傾向とは言えない。

表3-1-2 町内会・自治会の活動

	多非行	中非行	少非行	全体
お祭などの行事や催し物などを行っている	68.6	77.1	79.3	75.6
地域の清掃や環境美化活動をしている	68.1	71.2	69.9	70.1
地域の問題について話し合う会合を行っている	29.3	34.2	30.5	32.0
自治体の広報などの回覧を回している	71.4	76.5	73.9	74.6
防犯・防災パトロールが行われている	33.9	27.5	31.1	30.0
ほとんど活動していない	7.1	4.8	4.0	5.2

さらに、具体的に地域社会の問題解決に関してどのようにみているかを尋ねた結果が表3-1-4である。各調査項目とも「まったくその通り」あるいは「まあその通り」と回答した者の割合を示してある。全体の結果をみると、「地域住民が協力して活動しないと、少年非行は減少しない」あるいは「地域住民と関係機関が協力することで、青少年の健全育成が達成できる」という者が86%、「私は地域の自治体などの行政に、自分の意見が反映されるようにしたい」という者が71%、「私は地域に問題が生じたときに、どこへ援助を求めればよいのかわかっている」という者が50%、「私は積極的に地域の活動に参加して、地域を住み良くすることができる」という者が35%、「私は、地域の人々をまとめることができる」が13%となっている。地域の非行発生別でみると、ホとへを除いた4項目では、地域の非行発生が少なくなるほど、肯定する者の割合が若干増加しているが、少非行群と多非行群との間で5ポイント以上差がある項目はなく、顕著な傾向ではない。

表3-1-3 コミュニティ意識

(%)

	多非行	中非行	少非行	全体
イ) 私は同じ地域の人たちと話が合う	67.9	71.5	71.9	70.7
ロ) 私は同じ地域に住んでいる人と、他の地域の人とを見分けることができる	44.0	45.6	46.4	45.4
ハ) 私は現在住んでいる地域に、できるだけ長く住みたい	75.0	78.1	78.5	77.5
ニ) この地域では、問題が生じたら、みんなで協力して解決することができる	54.5	58.1	57.8	57.1
ホ) この地域の人たちはだいたい同じような物の考え方をしている	39.1	42.3	41.6	41.3
ヘ) この地域の人たちは、お互いによく助け合う	54.8	58.6	57.2	57.3

表3-1-4 地域社会の問題解決に関する見方

(%)

	多非行	中非行	少非行	全体
イ) 私は地域の自治体などの行政に、自分の意見が反映されるようにしたい	70.3	70.5	72.7	71.0
ロ) 私は、地域の人々をまとめることができる	11.6	12.8	13.0	12.5
ハ) 私は積極的に地域の活動に参加して、地域を住み良くすることができる	33.5	34.7	36.4	34.9
ニ) 私は地域に問題が生じたときに、どこへ援助を求めればよいのかわかっている	47.8	50.1	51.7	50.0
ホ) 地域住民が協力して活動しないと、少年非行は減少しない	86.1	86.0	85.8	86.0
ヘ) 地域住民と関係機関が協力することで、青少年の健全育成が達成できる	86.2	85.9	86.9	86.2

また、子どもの友達の親とのつきあいがどの程度であるかを尋ねた結果が表3-1-5である。全体の結果をみると、「道で会えば簡単な挨拶をする程度」と「立ち話程度はするが、深い話はしない」のそれぞれが35～36%、「子どものことなどで相談したり、助け合う」が20%、「顔も名前もわからない」が10%となっている。地域の非行発生別でみると、地域の非行発生が多くなるほど、「子どものことなどで相談したり、助け合う」という者の割合が若干減少しているが、少非行群と多非行群との差が2ポイント程度で、顕著な傾向ではない。

## 2 地域の青少年問題と有害環境の認知

保護者の目から見て、地域の青少年の問題行動がどの程度であるか、また青少年に悪影響を及ぼすと考えられる地域環境の状況がどうであるかをみてる。まず、表3-2-1は、全般的にみて、住んでいる地域で青少年の問題行動が多いか少ないか、また過去2、3年の間に青少年の問題行動がどう変化したと感じるか、さらに、これから先2、3年の間に青少年の問題行動がどう変化すると思うかを尋ねた結果である。全体の結果をみると、青少年の問題行動が全般的に多いか少ないかに関して、「非常に少ない」あるいは「やや少ない」と判断する者が44%、「ほぼ平均」の判断が43%、「やや多い」あるいは「非常に多い」の判断が13%となっている。また、過去2、3年の動向については、「非常に少なくなった」あるいは「少なくなった」と判断する者が17%、「変わらない」が64%、「多くなった」あるいは「非常に多くなった」が19%で、今後2、3年の動向については、「非常に少なくなる」あるいは「少なくなる」と判断する者が11%、「変わらない」が60%、「多くなる」あるいは「非常に多くなる」が30%となっている。地域の非行発生別でみると、非行発生の多い地域ほど、青少年の問題行動が現状として「非常に少ない」あるいは「やや少ない」と判断する者が少なく（少非行群と多非行群で16ポイント差）、その分「ほぼ平均」「やや多い」「非常に多い」のいずれかの判断を

表3-1-5 子供の友達の親との付き合い

	多非行	中非行	少非行	全体
顔も名前もわからない	10.8	9.4	8.8	9.6
道で会えば簡単な挨拶をする程度	37.2	34.4	34.9	35.3
立ち話程度はするが、深い話はしない	33.7	36.6	35.6	35.7
子どものことなどで相談したり、助け合う	18.4	19.5	20.6	19.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

する者が多くなっている。同様に、非行発生の多い地域ほど、過去2, 3年、青少年の問題行動が「非常に少なくなった」あるいは「少なくなった」と判断する者が少なく（少非行群と多非行群で7ポイント差）、その分「多くなった」あるいは「非常に多くなった」と判断する者が多く、また今後2, 3年、青少年の問題行動が「非常に少なくなる」あるいは「少なくなる」と判断する者が少なく（少非行群と多非行群で6ポイント差）、その分「多くなる」あるいは「非常に多くなる」と判断する者が多くなっている。

さらに、より具体的に個別の青少年の問題行動を取りあげて、住んでいる地域においてどの程度あるかの判断を求めた結果が表3-2-2である。表3-2-2では、イ〜ヲまでの12種類の問題行動についてそれぞれ、上段に「非常に多い」あるいは「やや多い」と判断した者の割合、下段に「非常に少ない」と判断した者の割合を示してある。全体の結果として、「非常に多い」あるいは「やや多い」と判断した者の割合をみると、「夜遅く町中でたむろしたり、ぶらぶらすること」「人目に付くところでタバコを吸うこと」「集団でバイクや車を暴走させること」のそれぞれが3割前後で、続いて「店の商品を万引きすること」あるいは「車や他人の家、公園などの設備を傷つけたり、落書きすること」が2割強、「カラオケボックスや居酒屋などで酒を飲むこと」が13%となっている。その他の項目については、多いと判断する者は1割に満たない。地域の非行発生別でみると、中学生の自己報告非行の多い地域ほど、12種類のすべての問題行動について、「非常に多い」あるいは「やや多い」と判断する者が多く、逆に「非常に少ない」と判断する者が少なくなっている。「非常に多い」と「やや多い」の合計では、「テレクラに電話して遊ぶこと」「親や教師に暴力を振るうこと」「覚せい剤やシンナーなどの薬物を乱用すること」「ナイフなどを持ち歩くこと」を除いた8種類の問題行動において、少非行群と多非行群の差が5ポイント以上となっており、「非常に少ない」の判断では、

表3-2-1 青少年の問題行動の変化

		(%)			
		多非行	中非行	少非行	全体
現状	「非常に少ない」+「やや少ない」	34.1	46.4	49.9	44.3
	ほぼ平均	47.5	42.8	39.9	43.2
	「非常に多い」+「やや多い」	18.4	10.8	10.2	12.5
過去2, 3年の変化	「非常に少なくなった」+「少なくなった」	13.8	16.2	21.2	17.0
	変わらない	64.5	64.4	64.0	64.3
	「非常に多くなった」+「多くなった」	21.7	19.4	14.8	18.7
今後2, 3年の変化	「非常に少なくなる」+「少なくなる」	7.5	10.3	13.6	10.5
	変わらない	59.8	59.4	61.7	60.1
	「非常に多くなる」+「多くなる」	32.7	30.3	24.8	29.5

すべての問題行動において、少非行群と多非行群の差が10ポイント以上となっている。

次に、表3-2-3は、地域環境、特に青少年の有害な影響を及ぼすと一般に考えられている環境がどの程度あるかを尋ねた結果である。表3-2-3では、イ～ヲまでの12種類の有害環境についてそれぞれ、上段に「非常に多い」あるいは「やや多い」と判断した者の割合、下段に「非常に少ない」と判断した者の割合を示してある。なお、ハとニは厳密には青少年に対する有害環境ではないと見る向きもあると思うが、地域住民の地域環境に対する無関心さを象徴するもので、青少年の問題行動を助長することにつながると考え、有害環境に含めて検討することにした。全体の結果として、「非常に多い」あるいは「やや多い」と判断した者の割合をみると、「未成年者でもタバコが買える自動販売機がある」が5割強で最も高く、「未成年者でも酒やビールが買える自動販売機がある」と「自転車やバイクが路上に乗り捨てられている」がそれぞれ4割前後、「夜遅くまで青少年が遊べるゲームセンターがある」「夜遅くまで青少年が遊べるカラオ

表3-2-2 個別の青少年の問題行動に関する認知

(%)

		多非行	中非行	少非行	全体
イ)夜遅く町中でたむろしたり、ぶらぶらすること	多い	42.4	30.8	27.0	32.6
	非常に少ない	21.3	29.3	35.9	29.1
ロ)人目に付くところでタバコを吸うこと	多い	39.9	29.3	25.9	31.0
	非常に少ない	22.9	32.0	37.0	31.1
ハ)カラオケボックスや居酒屋などで酒を飲むこと	多い	16.5	11.9	10.0	12.6
	非常に少ない	43.0	50.3	56.0	50.1
ニ)集団でバイクや車を暴走させること	多い	35.1	28.1	25.6	29.2
	非常に少ない	30.5	35.8	41.0	35.9
ホ)ケンカをして人をなぐること	多い	8.5	5.0	4.0	5.6
	非常に少ない	53.5	59.4	65.8	59.6
ヘ)店の商品を万引きすること	多い	25.2	22.6	16.3	21.6
	非常に少ない	35.8	39.5	47.3	40.7
ト)他の青少年や大人を脅して金品を奪うこと	多い	9.6	5.2	4.3	6.0
	非常に少ない	56.8	64.1	69.3	63.7
チ)テレクラに電話して遊ぶこと	多い	5.2	2.9	2.9	3.4
	非常に少ない	63.1	69.5	73.7	69.1
リ)車や他人の家、公園などの設備を傷つけたり、落書きすること	多い	29.1	17.5	18.5	20.6
	非常に少ない	34.7	43.2	47.7	42.3
ヌ)親や教師に暴力を振るうこと	多い	7.3	5.2	4.2	5.5
	非常に少ない	53.6	61.2	66.1	60.7
ル)覚せい剤やシンナーなどの薬物を乱用すること	多い	5.4	2.1	2.7	3.1
	非常に少ない	65.5	76.6	78.5	74.4
ヲ)ナイフなどを持ち歩くこと	多い	5.2	3.4	2.4	3.6
	非常に少ない	63.3	70.7	76.2	70.4

注 「多い」は、「非常に多い」と「やや多い」の合計

ケボックスがある」「未成年者にでも酒やビールを売る店がある」「未成年者にでもタバコを売る店がある」がそれぞれ2割前後となっている。他の項目については、多いと判断する者は13%以下で相対的に多くない。地域の非行発生別でみると、中学生の自己報告非行の多い地域ほど、12種類のすべての有害環境について、「非常に多い」あるいは「やや多い」と判断する者が多く、逆に「非常に少ない」と判断する者が少なくなっている。「非常に多い」と「やや多い」の合計では、「わいせつな雑誌やビデオが自動販売機で売られている」と「テレクラの会員権やツーショットカードが自動販売機で売られている」を除いた10種類の有害環境において、少非行群と多非行群の差が5ポイント以上となっており、「非常に少ない」の判断では、すべての有害環境において、少非行群と多非行群の差が5ポイント以上となっている。

また、表3-2-4は、自分の子どもが非行をしないかどうか心配であるかを尋ねた結果で、5種類の非行それぞれに関して、「ひとりでもしてしまうかもしれない」ある

表3-2-3 地域の有害環境の状況

		(%)			
		多非行	中非行	少非行	全体
イ)夜遅くまで青少年が遊べるゲームセンターがある	多い	23.8	17.6	18.2	19.3
	非常に少ない	49.0	57.7	59.9	56.1
ロ)夜遅くまで青少年が遊べるカラオケボックスがある	多い	29.3	24.4	22.6	25.1
	非常に少ない	41.7	47.3	52.0	47.2
ハ)公園のベンチや公衆電話などが壊されたり、落書きされたままになっている	多い	19.0	10.9	12.4	13.3
	非常に少ない	46.0	55.7	56.7	53.6
ニ)自転車やバイクが路上に乗り捨てられている	多い	47.1	36.1	32.8	37.9
	非常に少ない	21.1	28.3	33.9	28.0
ホ)風俗店の立て看板が路上の人目に付くところに出ている	多い	15.2	8.4	8.0	10.0
	非常に少ない	56.0	68.4	67.7	65.2
ヘ)電話ボックスにピンクビラ(風俗店の広告)がある	多い	11.8	6.4	6.1	7.6
	非常に少ない	61.8	71.3	72.2	69.2
ト)わいせつな雑誌やビデオが自動販売機で売られている	多い	8.2	6.2	5.2	6.4
	非常に少ない	65.3	72.6	76.7	71.9
チ)テレクラの会員券やツーショットカードが自動販売機で売られている	多い	3.6	2.6	1.8	2.6
	非常に少ない	77.1	82.9	85.5	82.2
リ)未成年者でも酒やビールが買える自動販売機がある	多い	48.1	40.1	37.9	41.5
	非常に少ない	17.8	22.6	24.8	22.0
ヌ)未成年者にでも酒やビールを売る店がある	多い	24.8	18.8	19.6	20.5
	非常に少ない	39.9	46.2	47.8	45.1
ル)未成年者でもタバコが買える自動販売機がある	多い	58.1	49.6	48.5	51.4
	非常に少ない	11.0	14.9	16.1	14.3
ヲ)未成年者にでもタバコを売る店がある	多い	25.2	19.2	19.4	20.8
	非常に少ない	38.5	45.8	47.8	44.5

注 「多い」は、「非常に多い」と「やや多い」の合計

いは「友達に誘われればしてしまうかもしれない」を選択した者の割合を示してある。全体でみると、「タバコを吸う」を懸念する者が24%で最も多く、他の非行に関しては自分の子どもがするのではないかと懸念しているのは13%以下と少なくなっている。地域の非行発生別でみると、自己報告非行の多い地域ほど、5種類のすべての非行について、自分の子どもの非行化を懸念する者が若干増加するが、少非行群と多非行群の差が5ポイント以上であるのは「タバコを吸う」のみである。

### 3 地域の大人の働きかけ

今度は、保護者が地域において、自分の子ども以外の青少年に対してどのような働きかけをしているのか、また、青少年が問題行動を行う場面に遭遇したらどのように対応するつもりなのかを検討する。

表3-3-1は、およそ過去5年間に、自分の子ども以外の地域の子供達に対してどのような働きかけをしてきたかをイからワまでの13種類の行動で尋ねた結果で、「1～2回ある」あるいは「何回もある」と回答した者の割合が示されている。全体の結果をみると、最も経験者の割合が高いのが「道であったとき声をかけた」の9割で、経験者が少ないのが「友達にいじめられているとき助けた」「困っているときや悩んでいるとき相談にのった」「将来のこと（進学や職業など）について相談にのった」の3項目でそれぞれ2割前後の経験者率となっている。その他の行動については、全体の経験者率は43～70%となっている。地域の非行発生別でみると、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の多い地域ほど、「一緒に運動やスポーツをした」者の割合が少なくなっている（少非行群と多非行群の差が7ポイント）。他の行動については、地域の自己報告非行による違いは見いだせない。

次に、表3-3-2-1から表3-3-2-3までと図3-3-2-1から図3-3-2-3までは、地域の中学生在が非行を行っている、あるいはこれから行おうとする場

表3-2-4 自分の子供の非行化に関する心配

	多非行	中非行	少非行	全体
イ)タバコを吸う	29.7	23.2	20.9	24.2
ロ)テレクラに電話して遊ぶ	16.0	12.7	12.3	13.4
ハ)人の自転車・オートバイに無断で乗る	14.5	10.6	10.3	11.4
ニ)店の品物をだまって持ってくる	13.1	9.6	8.8	10.2
ホ)無理やり人から金やものをひったくる	2.6	2.3	1.5	2.2



面に遭遇したら、自分自身あるいは近所の人ができるかを推定させた結果である。対応としては、「(非行を行っている、あるいは非行を行おうとしている) 中学生に注意する」と「警察に連絡する」の2つを設定し、それぞれ「必ずするだろう」あるいは「まあするだろう」を選択した者の割合を示してある。表3-3-2-1と図3-3-2-

表3-3-1 地域の子供たちへの働きかけ(過去5年間)

	多非行	中非行	少非行	全体
イ)言葉づかいや態度が悪かったので、注意した	43.2	42.2	43.2	42.7
ロ)人に迷惑をかけることをしていたので、注意した	60.4	58.3	60.0	59.3
ハ)言葉づかいや態度が良かったので、ほめた	67.6	67.2	68.4	67.6
ニ)良いことをしたので、ほめた	68.9	69.7	70.9	69.8
ホ)本人にとって危険な遊びをしていたので、注意した	63.3	61.7	62.2	62.2
ヘ)わからないことやできないことを教えた	56.8	56.5	57.5	56.9
ト)道であったとき声をかけた	89.3	89.6	90.2	89.7
チ)友達にいじめられているとき助けた	26.1	24.7	24.4	25.0
リ)困っているときや悩んでいるとき相談にのった	24.8	25.1	25.4	25.1
ヌ)将来のこと(進学や職業など)について相談にのった	18.0	17.2	18.1	17.6
ル)一緒に買い物や食事をした	44.5	44.6	44.9	44.6
ヲ)一緒に公園などで遊んだ	44.9	46.9	48.4	46.8
ワ)一緒に運動やスポーツをした	50.6	54.2	57.5	54.2

表3-3-2-1 中学生がけんかをしていたら

		多非行	中非行	少非行	全体
注意するか	本人	61.9	64.5	67.8	64.7
	近所の人	64.9	68.2	72.2	68.4
警察に連絡するか	本人	68.8	63.8	66.6	65.7
	近所の人	75.3	70.1	73.4	72.2

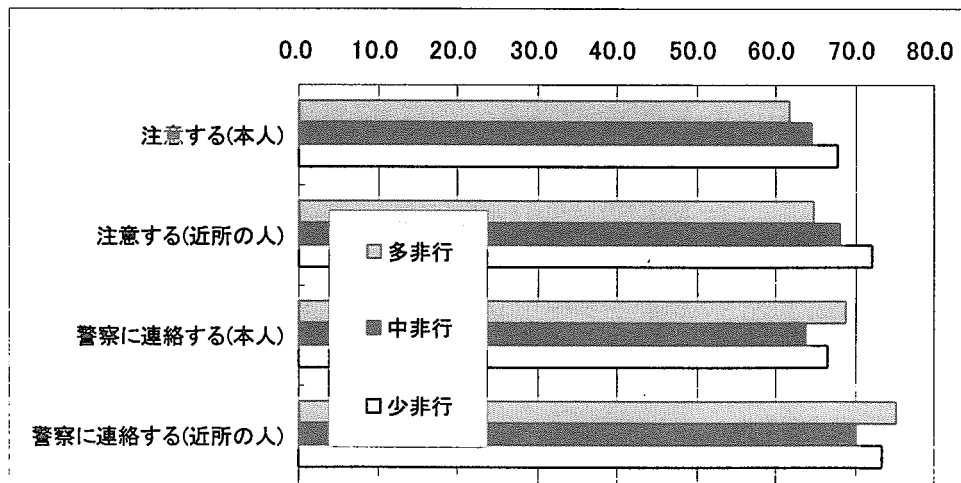


図3-3-2-1 中学生がけんかをしていた場合の対応

1は、中学生がなぐりあいのけんかをしている場合の結果で、全体で見ると、「自分が中学生に注意するだろう」あるいは「自分が警察に連絡するだろう」という者がそれぞれ65%前後、「近所の人が中学生に注意するだろう」あるいは「近所の人が警察に連絡するだろう」という者がそれぞれ7割前後となっている。地域の非行発生別で見ると、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の少ない地域ほど、「自分が中学生に注意するだろう」あるいは「近所の人には中学生に注意するだろう」という者が多くなっている（少非行群と多非行群の差が6～7ポイント）。

表3-3-2-2と図3-3-2-2、すなわち、中学生が集団でたむろしてたばこを吸っている場合の結果に移ると、全体で見ると、「自分が中学生に注意するだろう」あるいは「自分が警察に連絡するだろう」という者がそれぞれ35%前後、「近所の人」が中学生に注意するだろう」あるいは「近所の人」が警察に連絡するだろう」という者がそれぞれ4割前後となっている。地域の非行発生別で見ると、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の少ない地域ほど、「自分が中学生に注意するだろう」あるいは「近所の人」が中学生に注意するだろう」という者が多くなっている（少非行群と多非行群の差が5～6ポイント）。

表3-3-2-2 中学生がたばこを吸っていたら

		(%)			
		多非行	中非行	少非行	全体
注意するか	本人	30.3	33.6	35.7	33.3
	近所の人	36.0	40.0	42.0	39.5
警察に連絡するか	本人	37.6	36.8	39.2	37.6
	近所の人	43.9	43.2	45.7	44.0

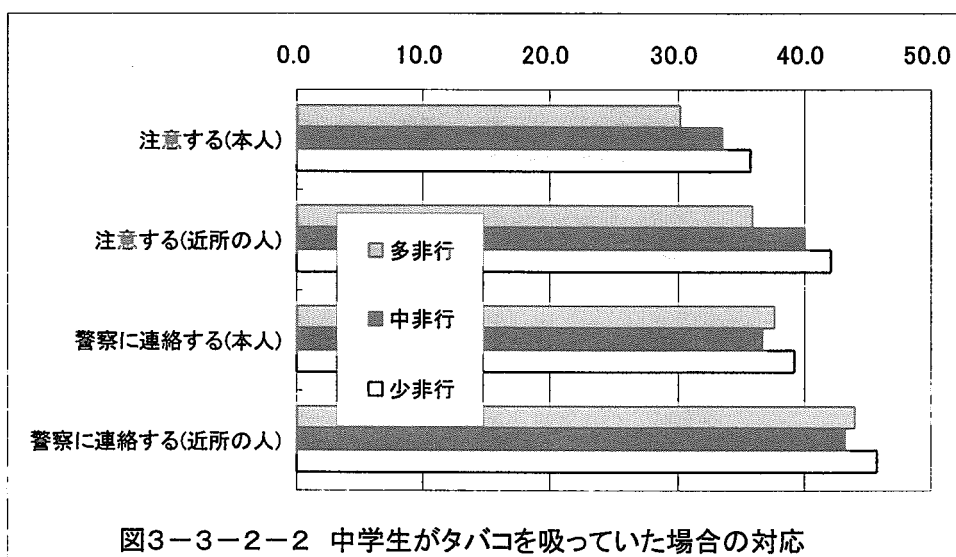
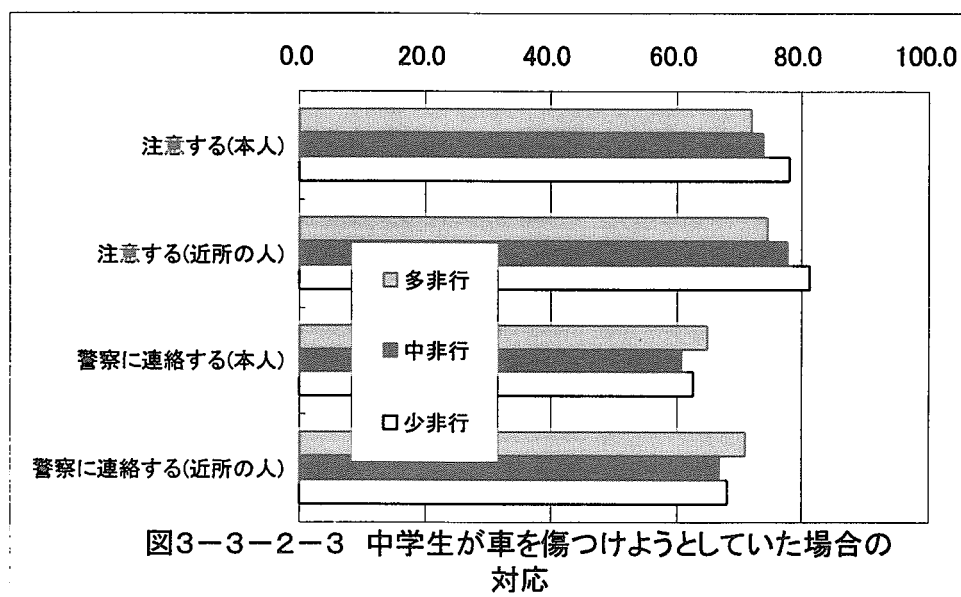


図3-3-2-2 中学生がタバコを吸っていた場合の対応

さらに、表3-3-2-3と図3-3-2-3、すなわち、中学生が路上に駐車してある車に傷をつけようとしている場合の結果をみると、全体では、「自分が中学生に注意するだろう」あるいは「近所の人が中学生に注意するだろう」という者がそれぞれ75%前後、「自分が警察に連絡するだろう」あるいは「近所の人が警察に連絡するだろう」という者がそれぞれ65%前後となっている。地域の非行発生別でみると、先の「なぐりあいのけんか」や「喫煙」の場合の結果と同様に、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の少ない地域ほど、「自分が中学生に注意するだろう」あるいは「近所の人には中学生に注意するだろう」という者が多くなっている（少非行群と多非行群の差が6ポイント）。

表3-3-2-3 中学生が車を傷つけようとしていたら

		多非行	中非行	少非行	全体
注意するか	本人	72.0	73.9	77.8	74.5
	近所の人	74.5	77.6	81.2	77.8
警察に連絡するか	本人	64.9	60.7	62.6	62.3
	近所の人	71.0	66.6	67.9	68.0



#### 4 健全育成活動への参加状況等

地域における青少年対象の健全育成活動、すなわち社会参加活動や非行防止活動に保護者やその子どもがどの程度参加しているか、さらに、地域で行われている健全育成活動に対する保護者の評価をみることにする。

表3-4-1と図3-4-1は、保護者自身が過去5年間に青少年のための地域活動にどの程度参加したかを尋ねた結果で、イからチまでの8種類の活動それぞれについて、「1～2回ある」あるいは「何回もある」と答えた者の割合を示してある。全体の結果をみると、「スポーツ大会、運動会」「お祭りなどのレクリエーション」「清掃活動、慰問などの社会奉仕活動」のそれぞれに参加した者が7割を超えており、続いて「青少年の健全育成のための講演会・懇談会」あるいは「補導活動、パトロール、環境浄化活動」に参加した者はそれぞれ6割弱で、「登山、キャンプ、芋掘り、潮干狩など自然にふれ

表3-4-1 過去5年間に参加した青少年対象の地域活動

	多非行	中非行	少非行	全体
イ)スポーツ大会、運動会	76.5	79.8	81.4	79.4
ロ)お祭りなどのレクリエーション	80.3	83.3	84.8	83.0
ハ)登山、キャンプ、芋掘り、潮干狩など自然にふれる活動	37.2	41.3	43.2	40.8
ニ)清掃活動、慰問などの社会奉仕活動	67.0	72.3	72.6	71.0
ホ)伝統文化の継承、郷土民芸品などの作品の制作	14.4	16.3	17.9	16.3
ヘ)青少年の健全育成のための講演会・懇談会	53.4	59.6	61.3	58.5
ト)補導活動、パトロール、環境浄化活動	57.2	55.3	66.0	58.6
チ)その他	15.5	13.6	17.0	14.9

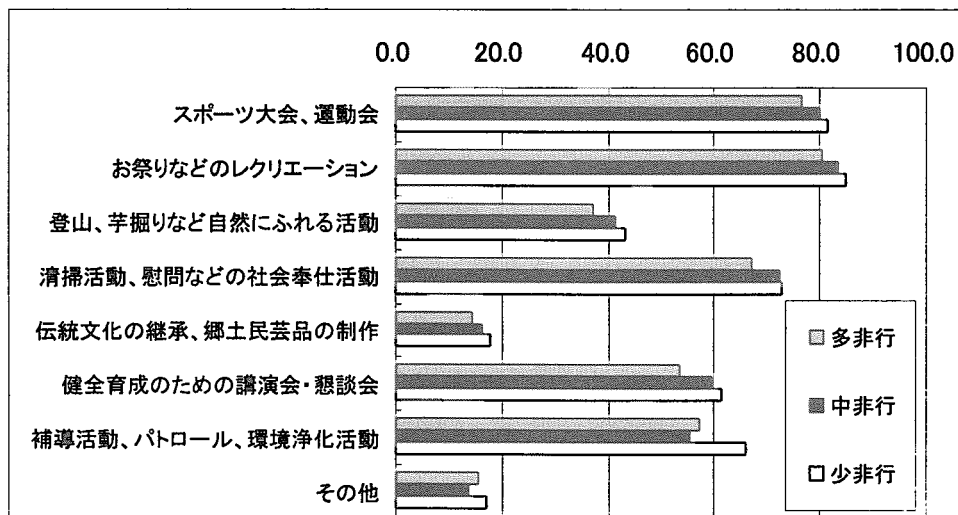


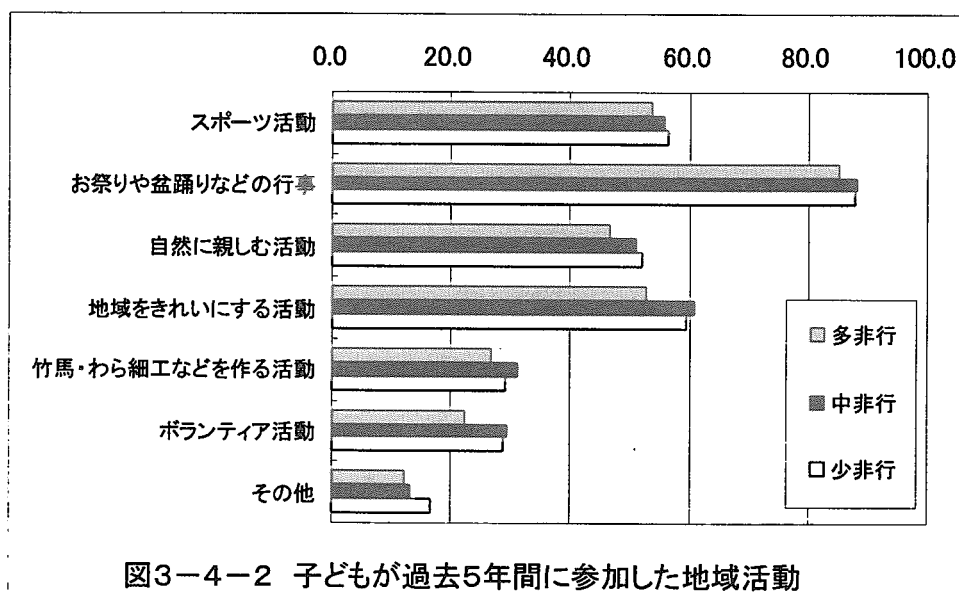
図3-4-1 過去5年間に参加した青少年対象の地域活動

る活動」に参加した者が約4割となっている。なお、残りの「伝統文化の継承、郷土民芸品などの作品の制作」と「その他」に対する参加者はいずれも2割未満となっている。地域の非行発生別でみると、「伝統文化の継承、郷土民芸品などの作品の制作」と「その他」を除いた6種類の活動については、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の多い地域ほど、保護者の参加が少なくなっている（少非行群と多非行群の差が5～9ポイント）。

また、保護者の子ども（中学生調査の調査対象となった子ども）が過去5年間にどのような地域活動（学校の行事やクラブ活動として行われるものを除く）に参加したかを尋ねた結果が表3-4-2と図3-4-2で、イからトまでの7種類の活動それぞれについて、「1～2回ある」あるいは「何回もある」と答えた者の割合を示してある。全体の結果をみると、「お祭りや盆踊りなどの行事」に参加した者が9割近くで最も多く、

表3-4-2 子どもが過去5年間に参加した地域活動

	多非行	中非行	少非行	全体
イ)柔道・剣道・野球・サッカーなどのスポーツ活動	53.7	55.9	56.3	55.5
ロ)お祭りや盆踊りなどの行事	85.1	88.3	87.8	87.4
ハ)ハイキング、田植え、芋掘りなど、自然に親しむ活動	46.6	50.9	52.2	50.2
ニ)公園の掃除や、花を植えるなど地域をきれいにする活動	52.6	60.7	59.5	58.4
ホ)竹馬・たこ・わら細工などを自分で作る活動	26.8	31.2	29.2	29.6
ヘ)お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動	22.4	29.5	28.8	27.6
ト)その他	12.3	13.2	16.4	13.8



続いて「柔道・剣道・野球・サッカーなどのスポーツ活動」「ハイキング、田植え、芋掘りなど、自然に親しむ活動」「公園の掃除や、花を植えるなど地域をきれいにする活動」のそれぞれに参加した者が5割台で、残りの「竹馬・たこ・わら細工などを自分で作る活動」と「お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動」に対する参加者は3割弱となっている。地域の非行発生別でみると、「ハイキング、田植え、芋掘りなど、自然に親しむ活動」「公園の掃除や、花を植えるなど地域をきれいにする活動」「お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動」の3種類の活動については、顕著な傾向ではないが、概ね自己報告非行の多い地域ほど、子どもの参加が少なくなっている（少非行群と多非行群の差が6～7ポイント）。

次に、表3-4-3は、保護者が地域で行われている青少年を対象とした地域活動をどう評価しているかを尋ねた結果で、複数選択で該当するものを選択した者の割合をそれぞれ示してある。全体の結果をみると、「指導者が少ない」という問題点を指摘する者が6割強で最も多く、その他の項目、すなわち、好意的な評価に関わる項目を選択する者は最大で2割強に留まっている。地域の非行発生別でみると、自己報告非行の少ない地域ほど、好意的な評価をする者が若干多く、逆に「指導者が少ない」が若干少なくなるが、少非行群と多非行群の差が5ポイントを超える項目はない。

表3-4-3 地域活動に対する評価

(%)

	多非行	中非行	少非行	全体
青少年のニーズにあった活動が行われている	7.1	9.5	10.9	9.3
参加する青少年の自主性を育む活動が行われている	10.1	12.3	13.4	12.0
学校や警察などの関係機関がうまく連携している	15.3	13.7	15.2	14.5
住民に対する広報が十分である	18.7	21.7	22.0	21.1
地域住民の意見や主体性が生かされている	6.1	7.0	6.9	6.7
活動に利用できる施設や場所が十分である	11.6	14.1	14.1	13.5
指導者が少ない	63.2	61.4	59.4	61.3

表3-4-4 今後の地域活動への参加希望

(%)

	多非行	中非行	少非行	全体
まったくそう思う	8.5	9.1	9.8	9.1
まあそう思う	58.1	56.1	58.1	57.1
計	66.6	65.2	67.9	66.3

さらに、表3-4-4は、青少年を対象とした地域活動に今後、積極的に参加していきたいかを尋ねた結果で、「まったくそう思う」と「まあそう思う」の合計%が示されている。全体で見ると、3分の2の保護者が今後、青少年を対象とする活動に積極的に参加する意欲を示しており、この割合は地域の非行発生別で見ても変わらない。

## 5 まとめ

この章では、中学生調査の対象者の保護者に対して行った質問紙調査の結果をみてきたが、そのうち、地域の非行発生別の結果を中心にまとめることにしたい。

まず保護者がどの程度地域に根付いているか、地域住民のまとまりの状況がどうであるをみたが、自己報告非行の多い地域ほど、地域の団体の役職についたことのない者が多く、地域の町内会・自治会が「お祭りなどの行事や催し物などを行っている」と回答する者が少なかった。ただし、コミュニティ意識や子どもの親同士のつきあいに関しては、地域の非行発生別で顕著な違いはみられなかった。

一方、保護者から見た地域の青少年問題や有害環境の状況については、地域の非行発生と大きな関連がみられた。すなわち、自己報告非行の多い地域ほど、地域の青少年の問題行動が現時点で多いと判断する者が多く、過去2、3年、青少年の問題行動が多くなった、あるいは、今後2、3年、青少年の問題行動が多くなると予想する者が多かった。深夜徘徊や喫煙や万引きなどの個別の問題行動でみた場合も、自己報告非行の多い地域ほど青少年の問題行動が多いと保護者はみており、保護者は地域の青少年問題の状況をかなり正確に把握していることが窺える。有害環境の状況に関しては、自己報告非行の多い地域ほど、深夜まで青少年が遊べるゲームセンターやカラオケボックス、ピンクビラや風俗店の立て看板、青少年が容易にポルノ雑誌、テレクラ会員券や酒、タバコを手に入れられる環境が存在することが明らかとなった。このことは、青少年の非行など問題行動の発生に地域の有害環境が大きな影響を及ぼしていることを示唆していると同時に、保護者が地域の有害環境の状況をかなり正確に把握していることも示唆している。しかしながら、自分の子どもが非行化しないかどうかの懸念については、自己報告非行の多い地域ほど顕著に高くなるという傾向は見いだせなかった。このことは、地域社会で青少年が非行を行っていることや青少年に有害な環境が存在することを把握しているにもかかわらず、自分の子どもは大丈夫だろうと考えている保護者が少なくないことを示唆していると思われる。

次に、地域において自分の子ども以外の青少年にどのような働きかけを行っているか、あるいは非行の場面に遭遇したらどのような対応を行うつもりかを検討した。過去の働きかけに関しては、自己報告非行の多い地域ほど、一緒にスポーツや運動をしたことがある者が少なかった。さらに、非行の場面を想定した質問からは、自己報告非行の多い地域ほど、非行を行っている青少年あるいは非行を行おうとする青少年に対して、自分あるいは近所の人々が注意するという保護者が少なかった。地域の青少年の問題行動に対して、自ら注意するなど主体的に働きかけるつもりがあるかどうかといった住民の姿勢が中学生の非行化に影響を及ぼしていると考えられる。

健全育成活動に関しては、顕著な傾向ではないが、自己報告非行の多い地域ほど、青少年対象の社会参加活動や非行防止活動に対する保護者の参加が少なく、さらに、一部の社会参加活動（地域の清掃活動や高齢者に対するボランティア活動）では子どもの参加も少なかった。もっとも、今後の地域活動に対する参加意欲に関しては、地域の非行発生に関わらず、約3分の2が積極的な姿勢を示しており、活動の運営次第ではどの地域でも多くの保護者を青少年対象の活動に取り込むことが可能であると期待できる。